

Smart and Human

摂南大学



4技能重視の英語教育への転換～ 新カリキュラム1期生の2年半の経過報告

摂南大学 外国語学部

松田早恵・鳥居祐介・後藤一章

1

- 新カリキュラムの概要

2

- アセスメント分析

3

- 新カリキュラムの成果と今後の課題

鳥居

新カリキュラム(2015-) 概要

新カリキュラム(2015-)のコンセプト

- ・インプットのみならず**アウトプットを重視し**、**4技能**バランスを。
- ・4技能を反映するアセスメント、成績評価を。
- ・ICTを活用した自学自習スキルの養成を。
- ・留学や海外研修への参加を共通目標に。留学必須のコース（奨学金あり）への配属を入学後に目指させることで、入学直後の学習動機づけを。
- ・担当者に丸投げする授業から、共通目標、共通課題、共通テストが実施される授業へ。専任教員が非常勤教員のコーディネートを。

英語プロフェッショナルコース
(2年次後期留学必須)

TOEICスコアに見合う
会話力・作文力の育成

国際キャリアコース
(多彩なパッケージプログラム)

「学校英語のやり直し」
ではないアウトプット重
視のレメディアル

新カリキュラム授業の主な取り組み

学年	英語プロフェッショナルコース	国際キャリアコース
1	*1年次後期から英語プロコースと国際キャリアコースに分かれるが授業と課題は共通	
	<ul style="list-style-type: none">・オリジナル教材による100の基本例文の暗記、暗唱の徹底・ATR-CALL, 成美堂リンガポルタ等のe-learning課題・4技能オンラインテストProgress Testを期末テストとして実施・会話系の授業では、発話を録音する共通課題を実施	
2	*授業は前期のみで、後期は留学 ・スカイプによる英会話（フィリピン人講師・マンツーマン）を必須とする。	<ul style="list-style-type: none">・ English for Specific Purposesなど、キャリアを意識した英語授業・ 留学や海外研修を奨励
3	・ 選択科目を含め、英語授業は原則として全て指導言語を英語とする。	<ul style="list-style-type: none">・ 留学や海外研修を奨励

1年次コア科目



スキルズ・トレーニング a

3週ごとに状況報告

スピーキング & ライティング la

専任教員担当
コア科目コーディネーター

CALL or 情報
処理室で授業

ATR-CALL
※e-learning

ネイティブ
教員担当

話す、書く
アウトプット授業

100SS暗唱テスト
※単位取得要件

10文×5回
5回全てに合格
することが必要

プログレス
テストの実施

100SS発音
テスト

50文中45文
以上合格が単位
取得要件

ボキャブラリー & グラマー la

3つの単位取得要件

TOEIC基本語彙テスト
1-808, 809-1500

※70%以上正解が必要

100SS筆記テスト
英訳問題
50問中40問以上
→予備試験あり

リンガポルタ課題

前期: 1-808 後期: 809-1500

リーディング la

3つの読解力をバランスよく伸ばす授業

速読

精読

多読

2年次英プロ科目

Integrated Skills Training

- スカイプ英会話の導入（90回中70回以上要実施）
- 共通テキスト(*Top Notch 2*) の導入

Practical English Conversation

- 全クラスロールプレイ課題⇒披露会

Academic Reading

- リンガポルタ課題の実施（1-1500）
- 共通テキストの使用

Academic Writing

- パラグラフィティング指導

English for TOEFL

- TOEFL-ITPテストの結果が成績評価30%になる

3年次英プロ科目

- 2017共通テキストとして、Contemporary Topics 1(Pearson)を指定。必修のうち3科目を「1科目3セクション」に見立て、スケジュールを統一して連携。指導言語は選択科目も含め原則として全て英語。

Comprehensive English a, b

- 共通テキストのリーディング&リスニング部分を担当。
- 担当者はまとめ役。多読課題やe-learning、各種テストの管理を担う。

English for Global Communication

- 共通テキストのディスカッション部分を担当
- 10名未満の超・少人数

English Writing Workshop

- 共通テキストに基づくエッセイライティングを行う。
- 10名未満の超・少人数
- 小冊子Setsunan Academic Essay Guidelines

English Lecture Ia, Ib

- 共通テキストからは独立したビジネス系のトピックを担当者が設定し、講義+ディスカッション+エッセイから成る授業を行う。
- TOEICスコアを成績評価に加える。

English Lecture IIa, IIb / Debate & Presentation a, b

- 担当者の設定する単一のトピック(2017はツーリズムと演劇)による講義+ディスカッション+エッセイの授業、または複数のトピックでディベートとプレゼンを実習する授業を選択。

アセスメント 結果分析

松田

アセスメントの種類

多様な外部テストを利用し、
英語能力を様々な角度から測定



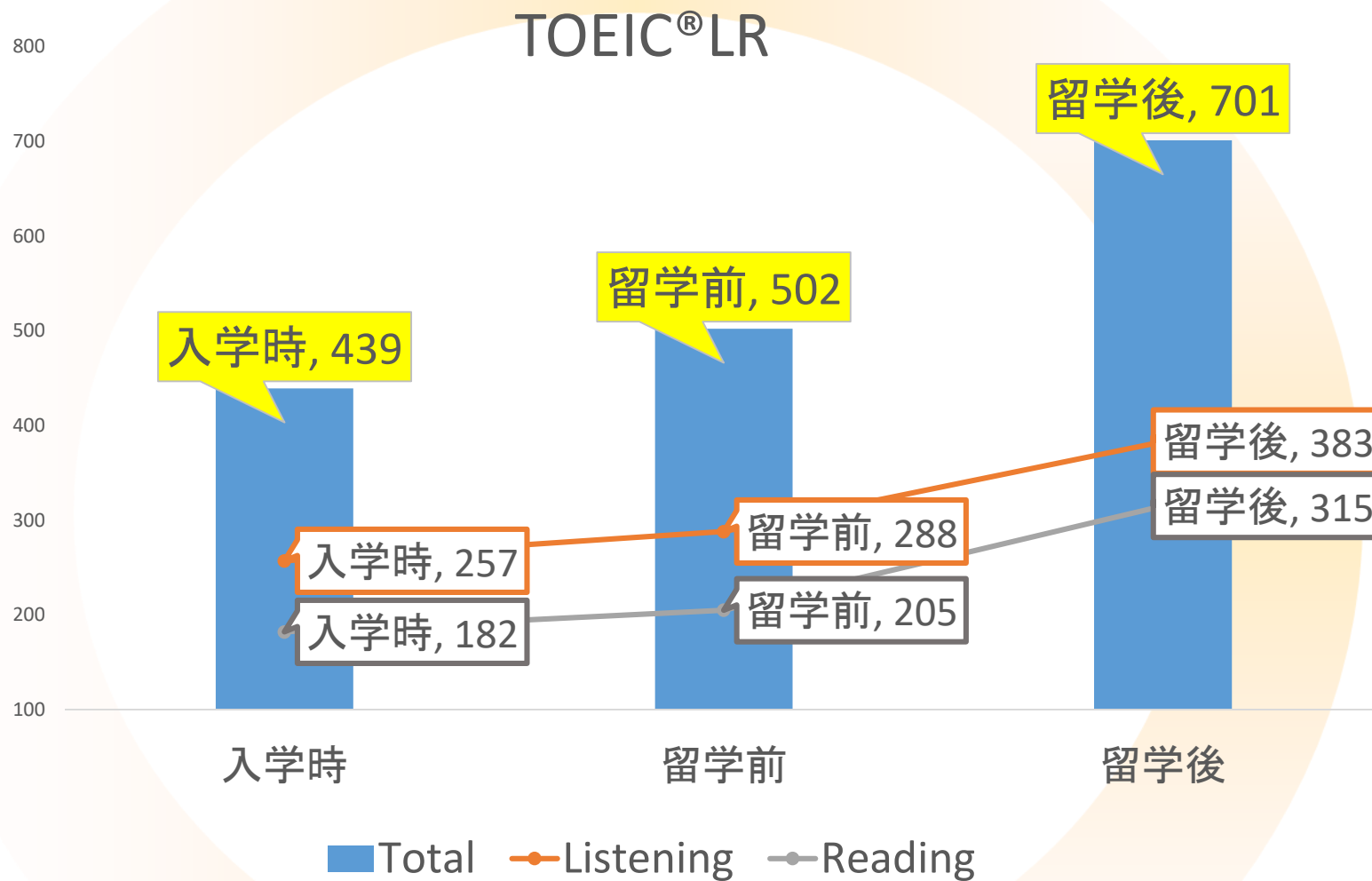
Progressテスト受験風景
2017年7月



TOEIC® TOEFL®



TOEIC®スコア推移



※個々の評価は出ないが、以下の領域を総合的に評価する。

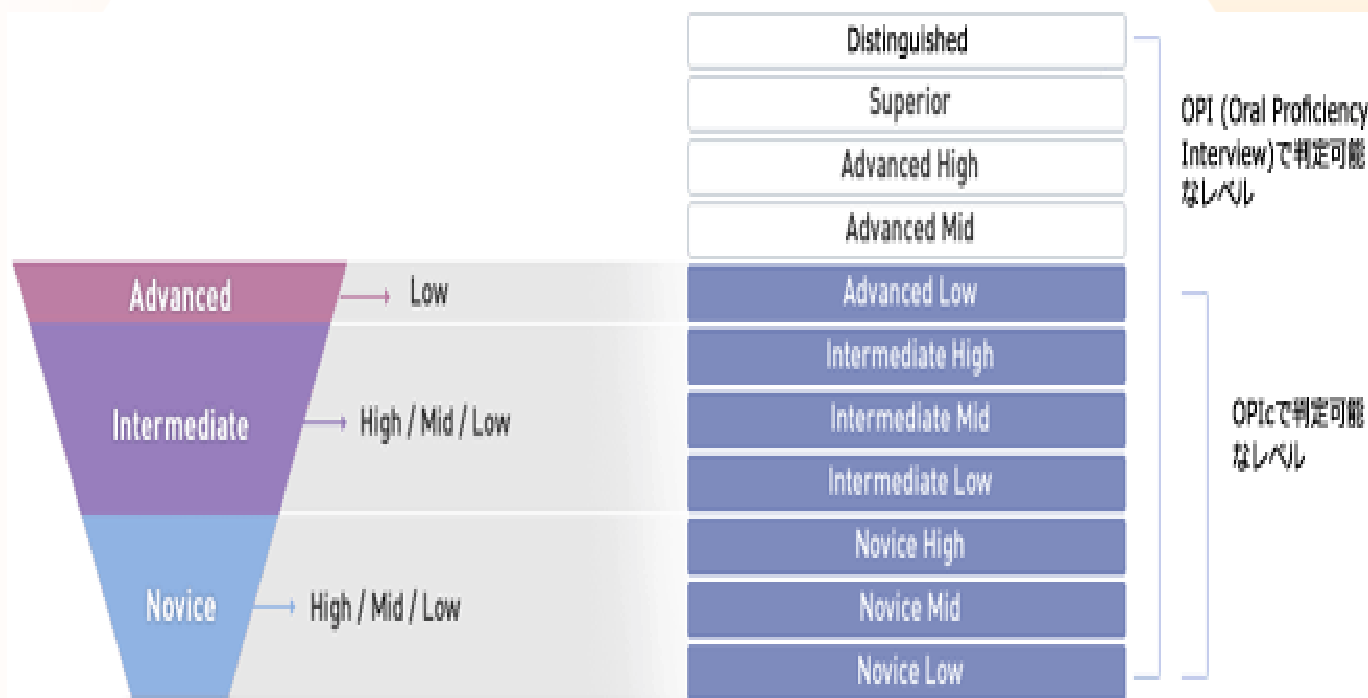
Function / Global Tasks (コミュニケーション継続能力)

Text Type (文章構成力)

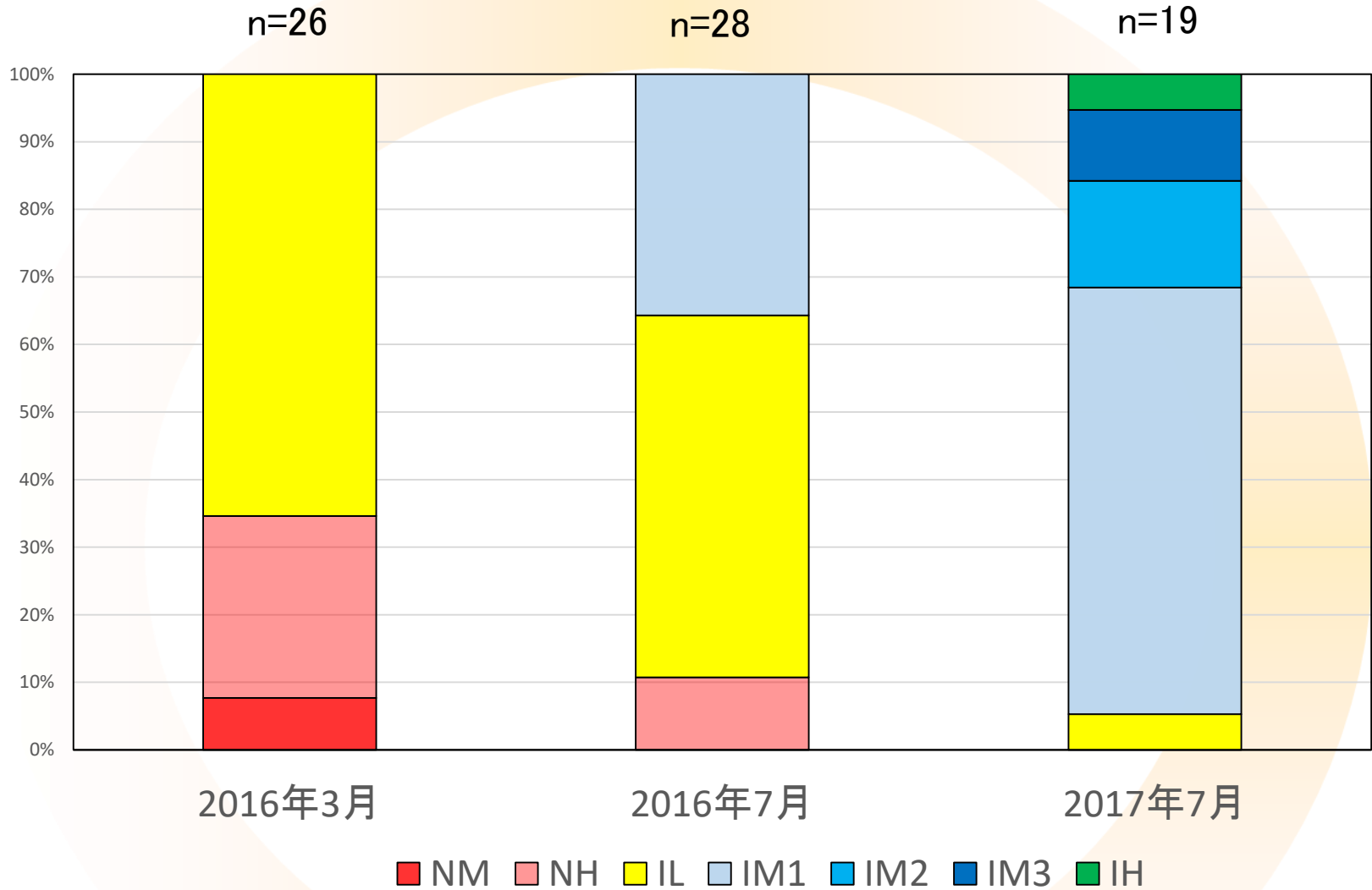
Contents / Context (状況に応じた表現力)

Comprehensibility (質問意図の把握能力)

Language Control (文法・語彙・流暢さ・発音)



OPIcのレベル推移

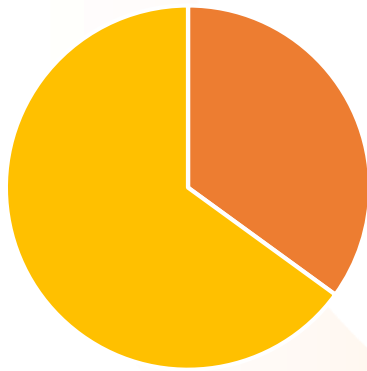


OPI/OPIc vs. CEFR

Tschirner (2012)

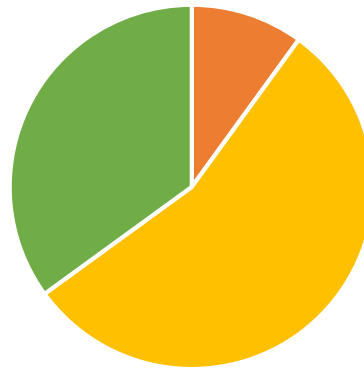
OPIc	CEFR
Novice High	A1
Intermediate Low	A2
Intermediate Mid	B1
Intermediate High	B1
Advanced Low	B2
Advanced Mid	B2
Advanced High	C1
Superior	C2

2016.3



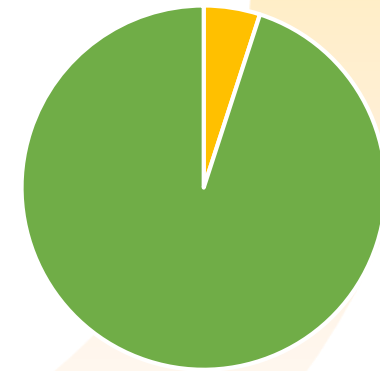
■ A1 ■ A2 ■ B1

2016.7



■ A1 ■ A2 ■ B1

2017.7



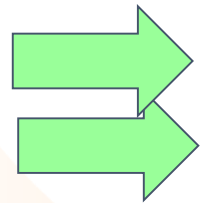
■ A1 ■ A2 ■ B1

Progress 25-40 ⇒ 35-50

後藤



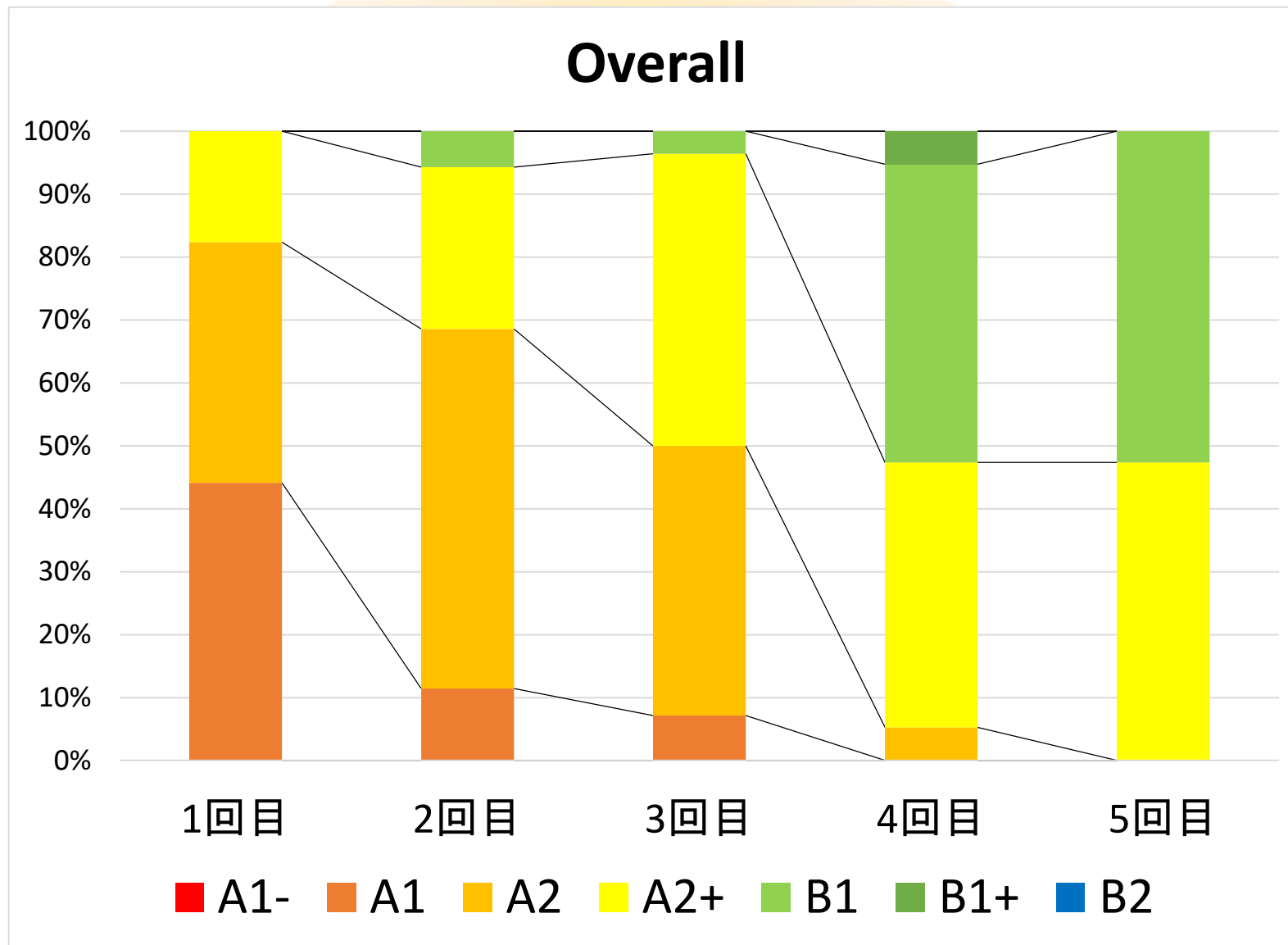
- Score range 20-55
- CEFR <A1 – B2>



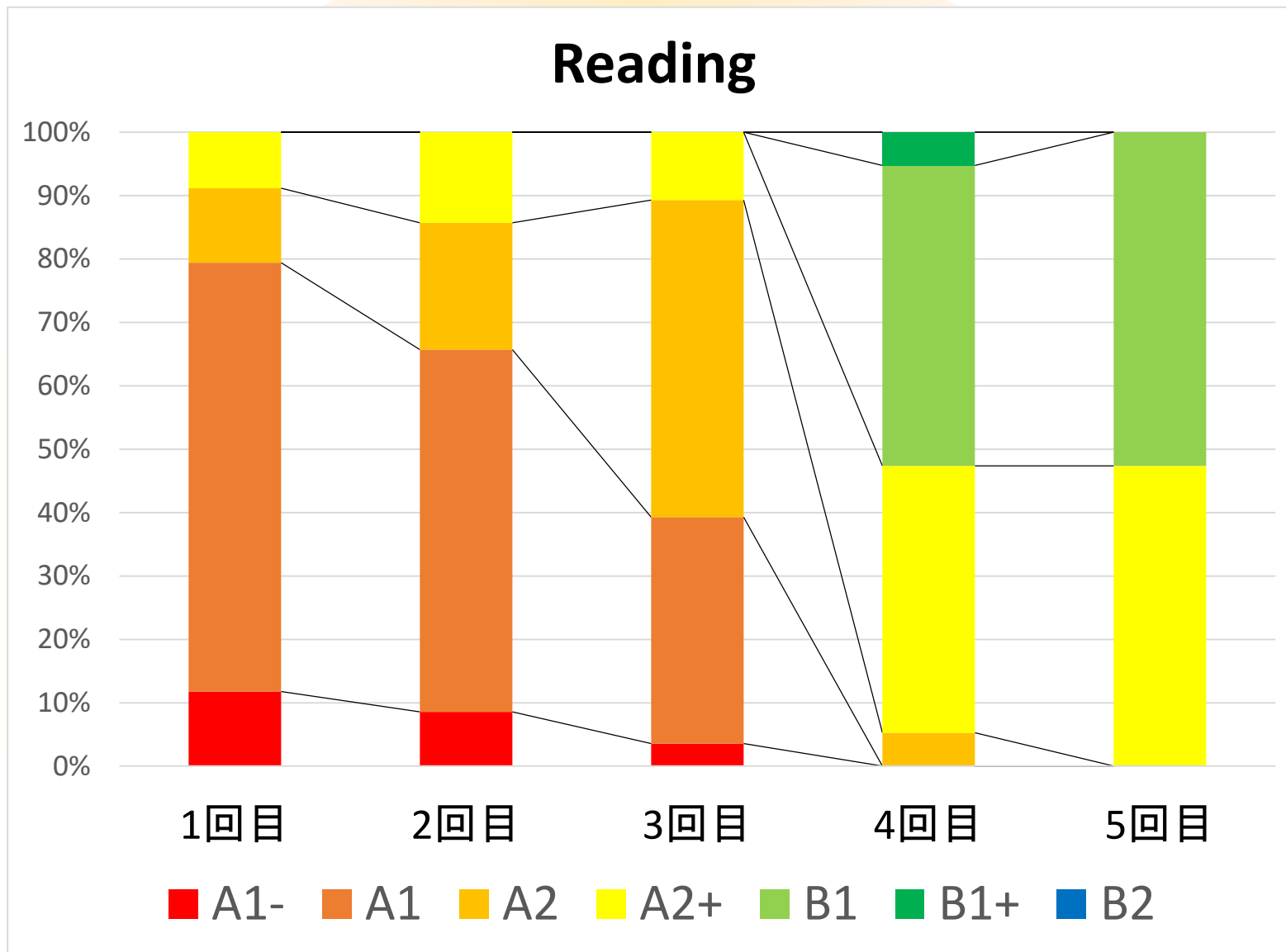
GSE	10	20	30	40	50	60	70	80	90
Progress 65-80									
Progress 55-70									
Progress 45-60									
Progress 35-50									
Progress 25-40									
Progress 15-30									
CEFR	<A1	A1	A2 ⁺	B1 ⁺	B2 ⁺	C1	C2		

回数	受験日	受験者数	受験レベル
1回目	2015年7月	34名	elementaryレベル25-40
2回目	2016年1月	35名	elementaryレベル25-40
3回目	2016年7月	28名	elementaryレベル25-40
4回目	2017年4月	19名	pre-intermediateレベル35-50
5回目	2017年7月	19名	pre-intermediateレベル35-50

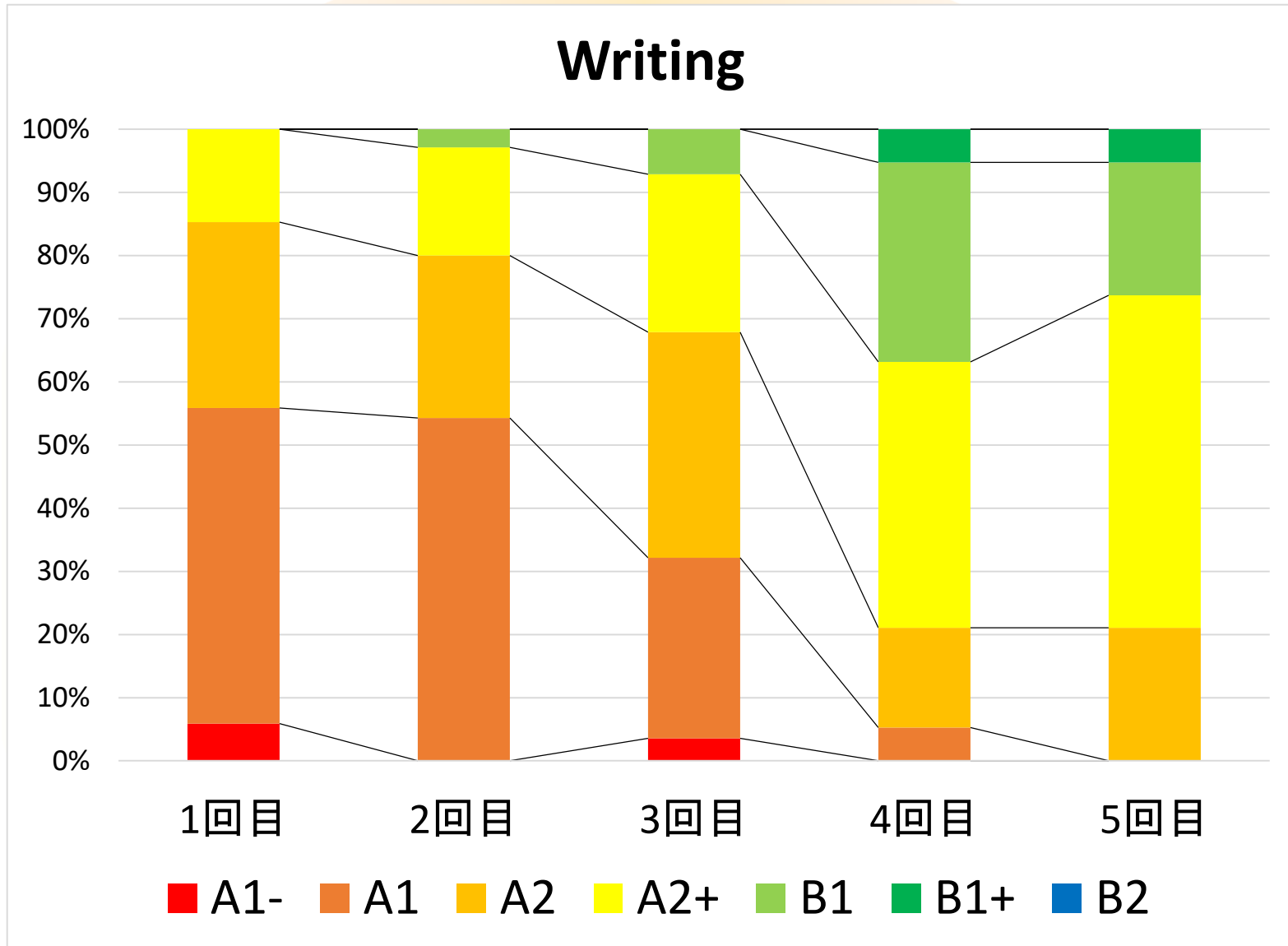
プログレテスト結果の2年間の推移



プログレテスト結果の2年間の推移

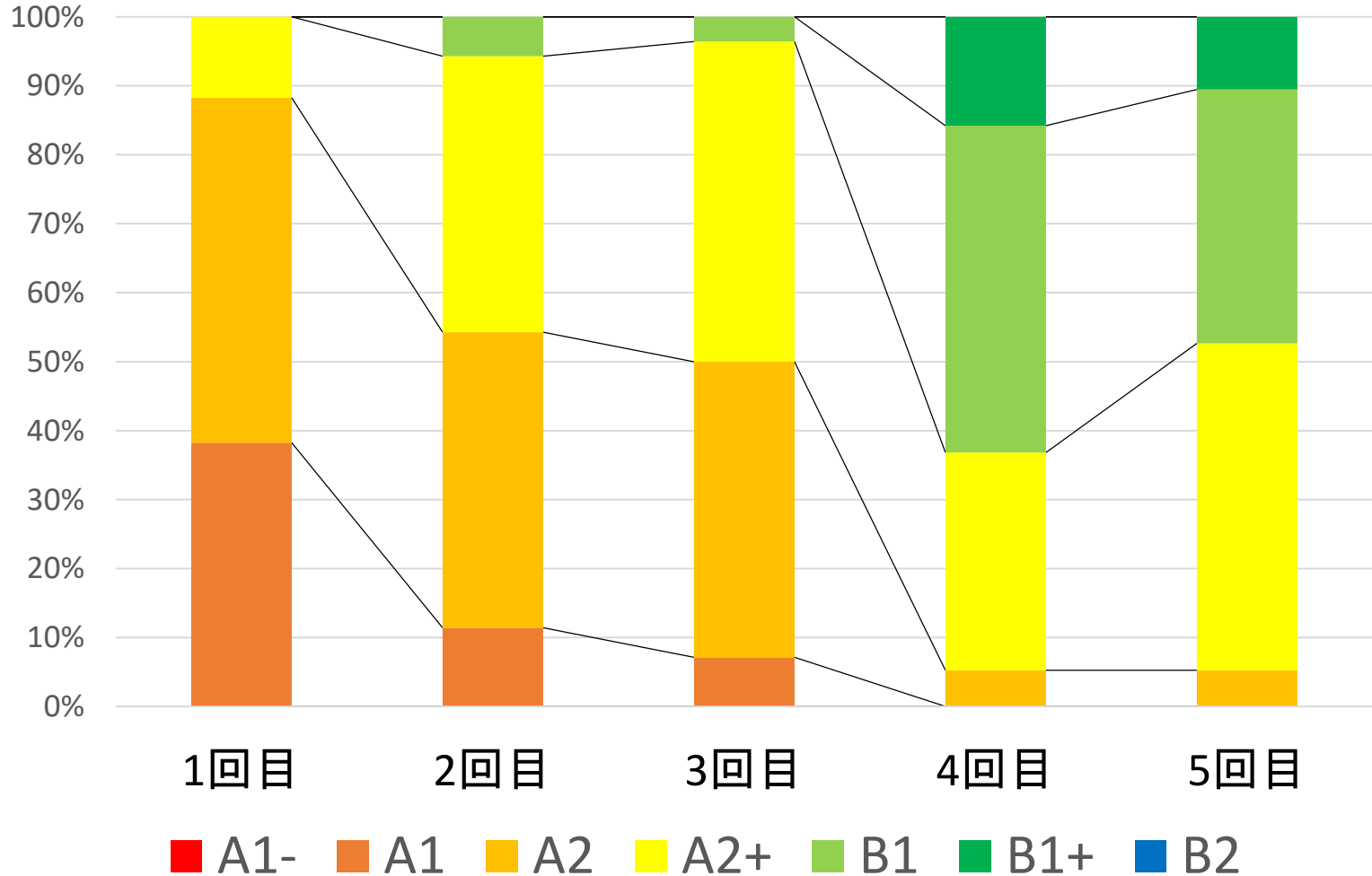


プログレステスト結果の2年間の推移



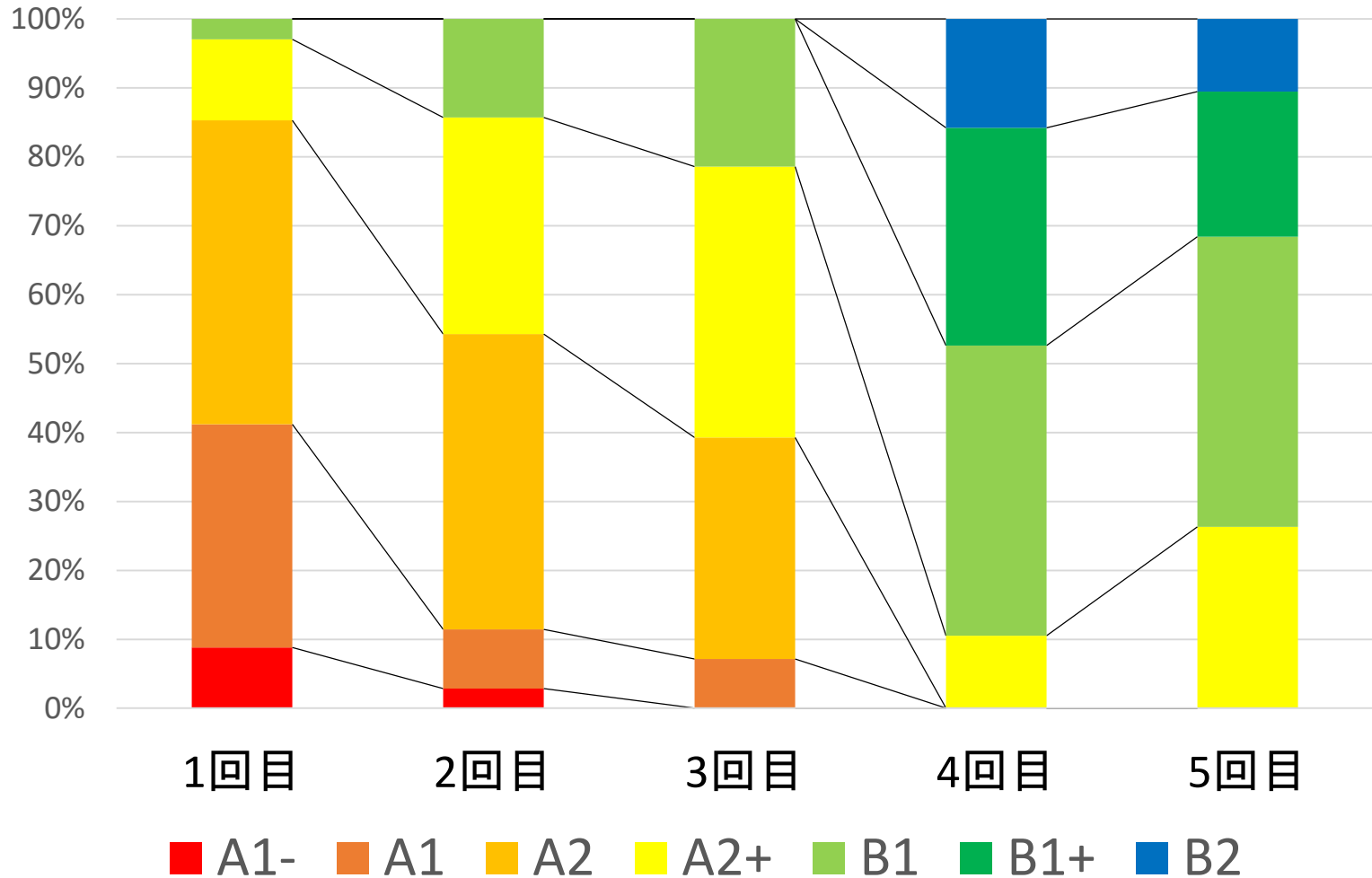
プログレステスト結果の2年間の推移

Listening

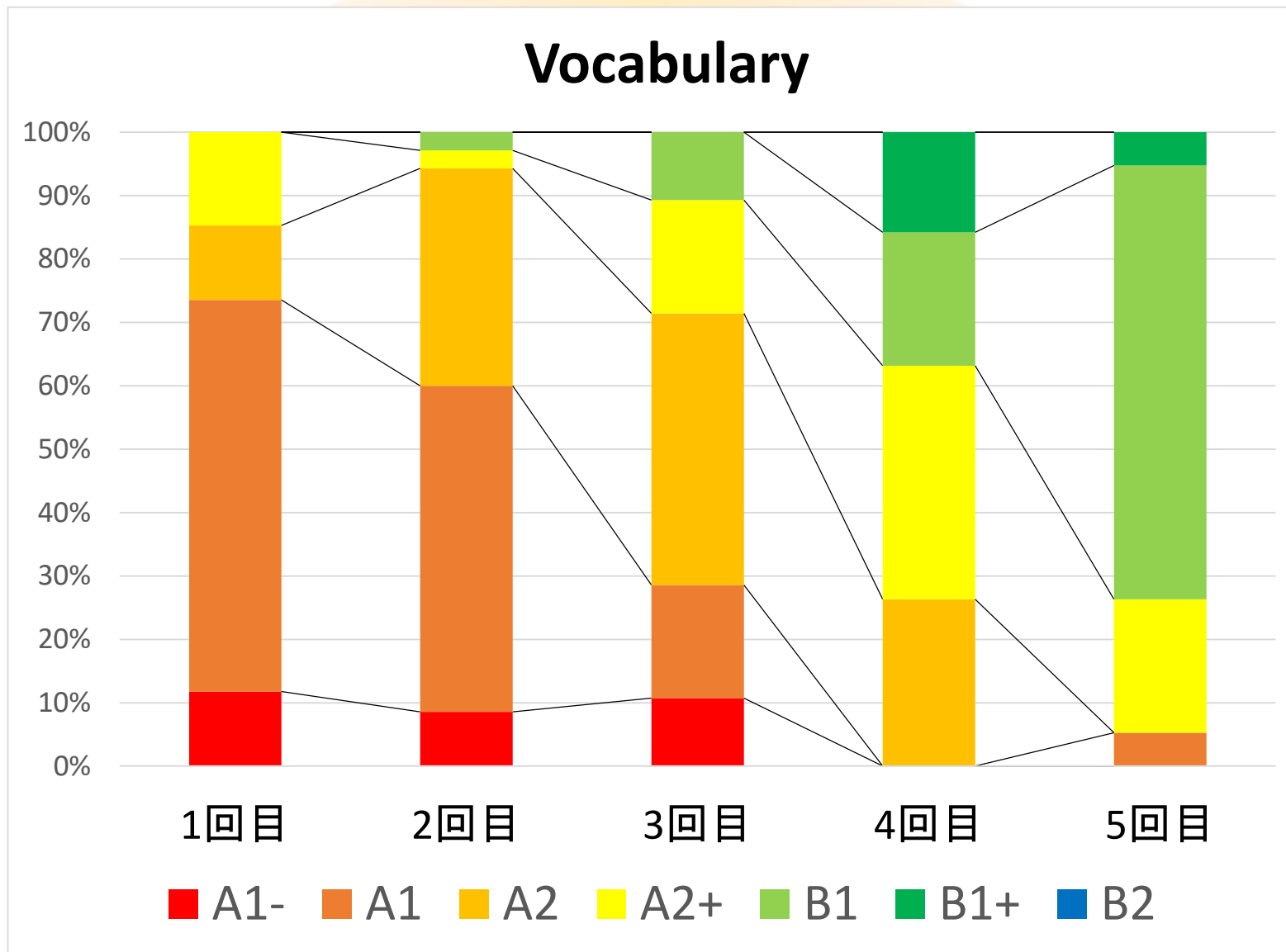


プログレステスト結果の2年間の推移

Speaking

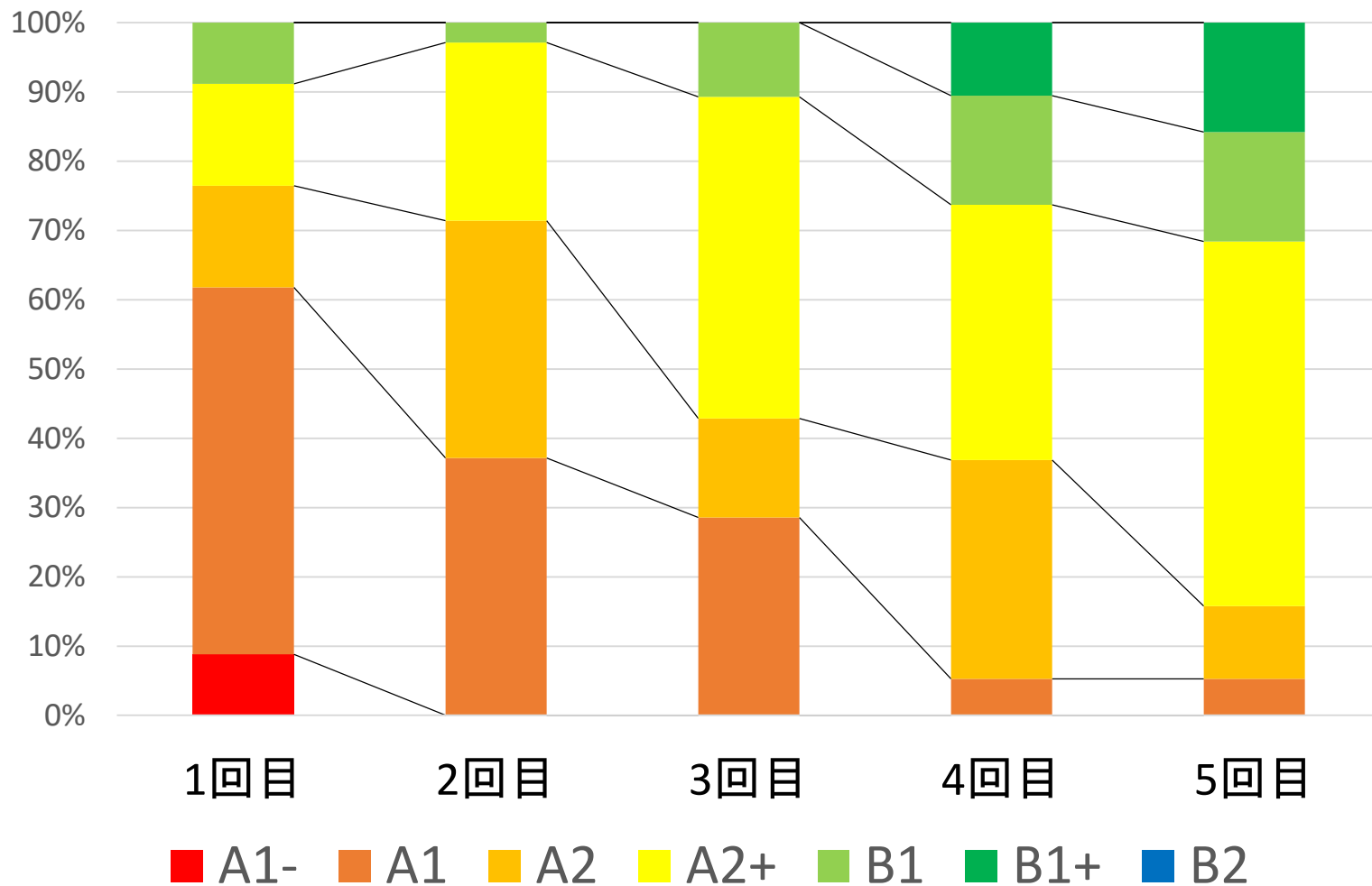


プログレステスト結果の2年間の推移

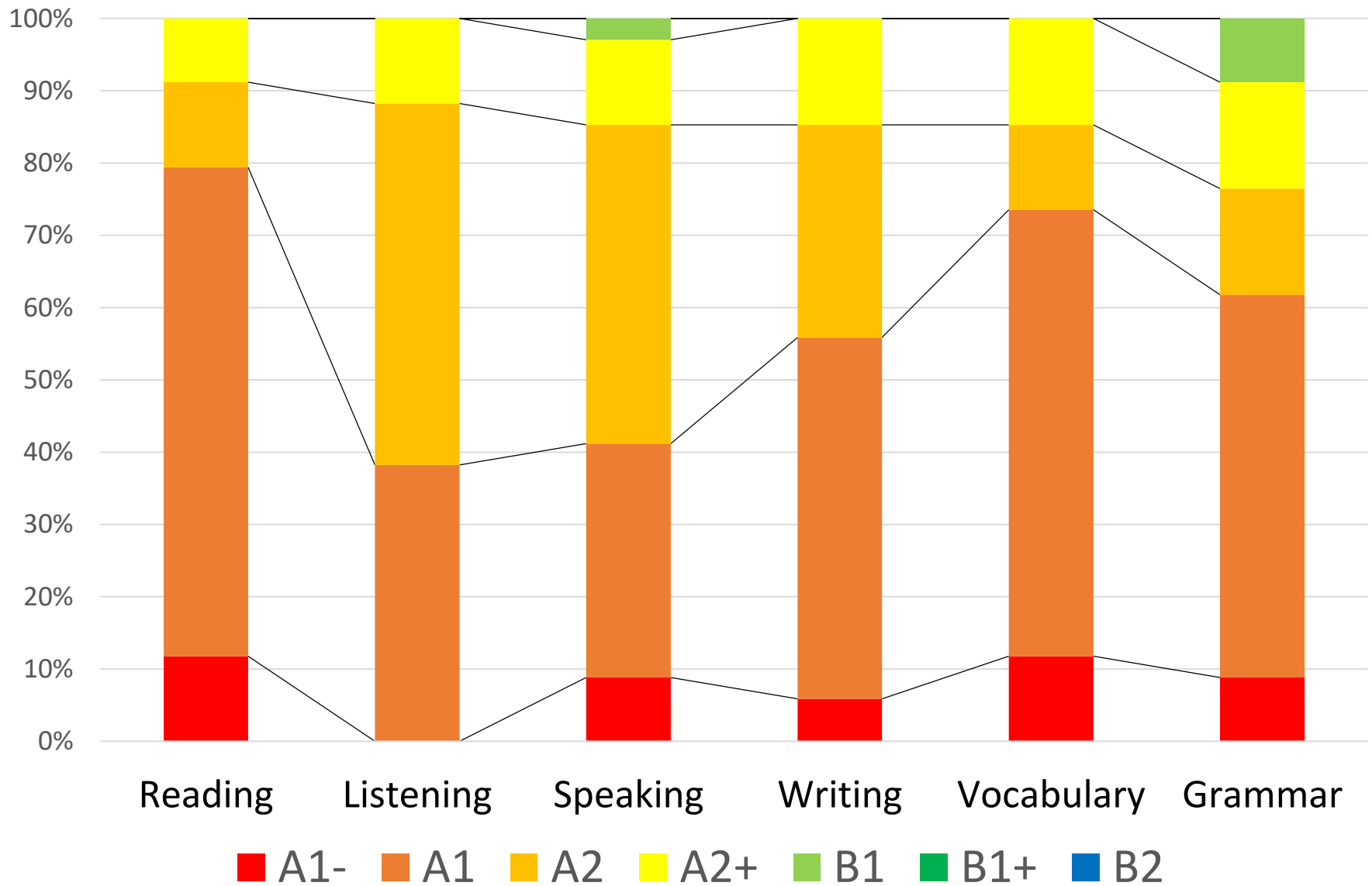


プログレステスト結果の2年間の推移

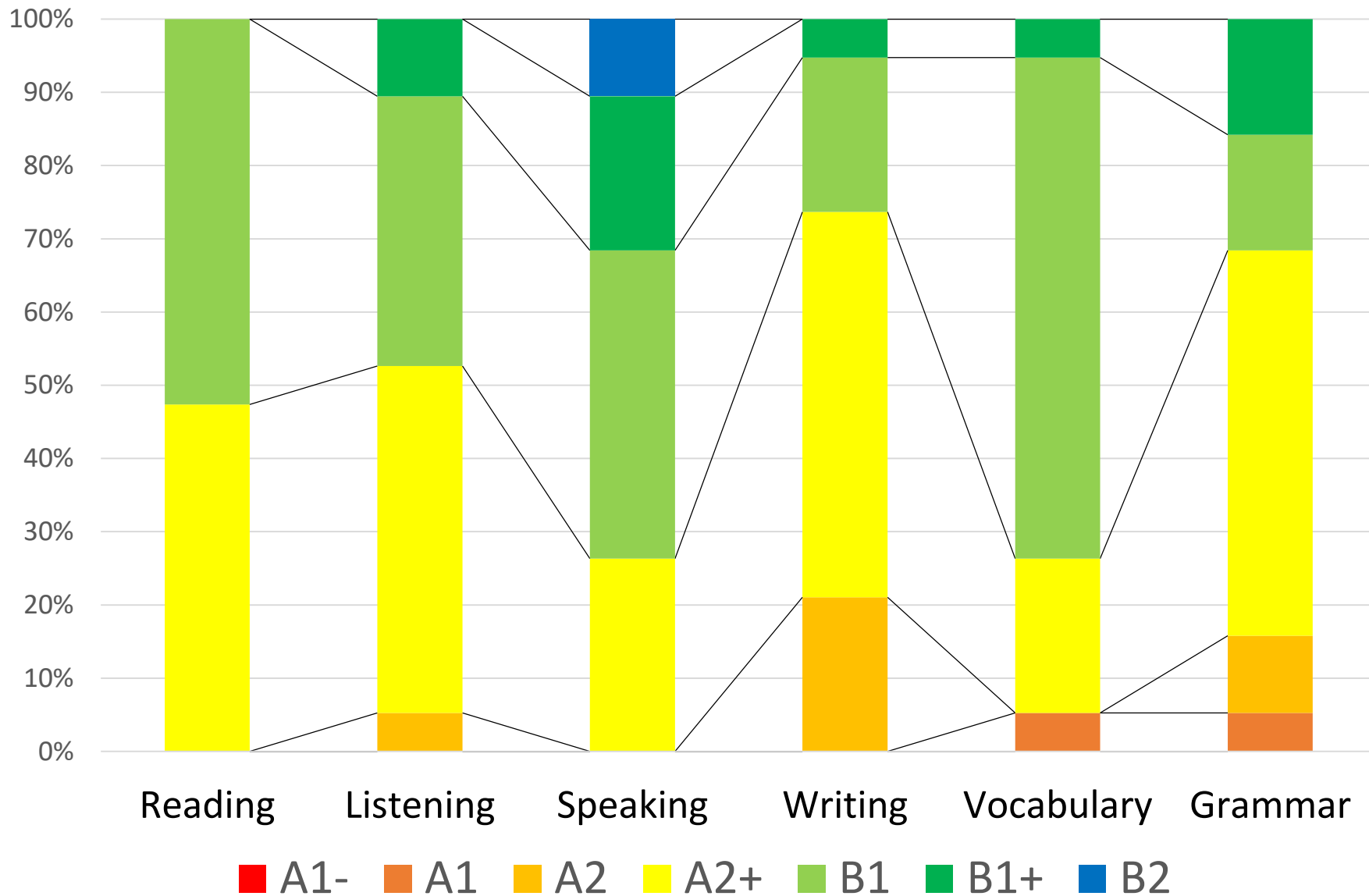
Grammar



プログレステスト 1回目 (Skill別)



プログレステスト 5回目 (Skill別)



プログレステスト結果についての所見

- Reading と Writing は留学帰国後の一学期間で変化が少ない
- Listening と Speaking は留学帰国後の一学期間で低下傾向
- Vocabulary と Grammar は留学帰国後の一学期間で上昇傾向
- すべてのスキルにおいて留学前後で大幅な上昇

2016年7月実施

(2年次前期終了時)

最高点：480点／677点

平均点：432点／677点

2017年7月実施

(3年次前期終了時)

最高点：543点／677点

平均点：474点／677点



鳥居

新カリキュラム 2015-2017の成果と課題

英語プロフェッショナルコース3年次生を中心に

新カリキュラム2015-2017の成果

オーラルコミュニケーション力の向上

- ・ OPIcとプログレステストのspeakingで顕著な伸び。
- ・ 3年次のEnglish Onlyの授業も予想以上に順調。学生の反応もよい。

TOEIC®スコアの向上

- ・ TOEIC® (L&R)スコアは予想以上の伸び
- アウトプット系重視の指導 + 留学のカリキュラムで、インプット系2技能のTOEICスコアも順調に伸びている。

新カリキュラム2015-2017の課題

4技能バランスの (逆方向への) 偏り

- ・ 会話力、TOEICスコアの伸びに対し、作文力、文法力、そして (TOEIC以外のアセスメントでの) 語彙力、読解力で伸び悩む学生が多い。「日本人英語学習者」の古典的ステレオタイプとは逆の「会話偏重」の偏りがみられる。
 - ・ TOEIC高得点の学生でも、プログレスのReadingでCEFR基準のB1未満, TOEFL ITPで500未満の学生が多い。
- 考えられる原因としては：
- ・ 母語における知的、抽象的語彙力、読書習慣の不足。
 - ・ (英語学習以外の事柄に対する) 知的好奇心の不足。
 - ・ 授業時間外の学習習慣、学習時間の不足。
 - ・ 長時間アルバイトの必要等、環境的、経済的制約。

新カリキュラム・2018に向けて

留学前（1年次～2年次前期）

- ・コース配属 & 留学制度利用におけるTOEIC基準の見直し、GPA基準の追加などで、基礎学力充実への意識向上を図る。
- ・授業時間外学習指導の強化、厳格化を検討。（スカイプ英会話、e-learningなど。）

留学中（2年次後期、またはその前後を含む1年間）

- ・現地での学習活動のモニタリング強化を検討
- ・資格試験受験の義務付けを検討

留学後（3年次以降）

- ・留学後の学習モチベーション維持に役立つEnglish Onlyの原則は継続しつつ、スキルが「会話偏重」になっている学生には自覚させる。必修授業において読解、作文、語彙、文法の強化を図る。
- 帰国時点の「会話偏重」は<成果>として前向きにとらえる。

Brown, J. D. (2004). Performance assessment: Existing literature and directions for research. *Second Language Studies*. 22 (2), 91-139.

Hughes, A. (2002) *Testing for Language Teachers*. Cambridge University Press.

Global Scale of English Learning Objectives (2016) Pearson: UK.

https://www.google.co.jp/?gws_rd=ssl#q=Global+Scale+of+English

Progress Test Information Booklet. (2014) Pearson: UK.

http://product.pearsonelt.com/progress/downloads/test_info_booklet.pdf

Tschirner, E. (2012). Assessing Evidence of Validity of Assigning CEFR Ratings to the ACTFL Oral Proficiency Interview (OPI) and the Oral Proficiency Interview by computer (OPIc)

<http://global8.or.jp/OPIc%20CEFR%20Study%20Final%20Report%20pdf.pdf>

静哲人・竹内理・吉澤清美 共編著(2001)『外国語教育リサーチと
テストの基礎概念』関西大学出版部

静哲人(2012)第9刷『英語テスト作成の達人マニュアル』大修館書店

文部科学省(2013)「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」

[http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/25/12/__icsFiles/afieldfile/
2013/12/17/1342458_01_1.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/25/12/__icsFiles/afieldfile/2013/12/17/1342458_01_1.pdf)

文部科学省(2015)「平成26年度 英語教育改善のための英語力調査
事業報告」

http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1358258.htm

SETSUDAI 